

## 地震災害の歴史(明治以降)

発生日	M	地震名	死者不明者	最大震度	最大震度を観測した観測点(地方)
明治5(1872)年 3月14日	7.1	浜田地震	死者約550	不明	—
明治24(1891)年 10月28日	8	濃尾地震	死者7,273	-6	岐阜、愛知、滋賀、三重県の一部
明治27(1894)年 10月22日	7	庄内地震	死者726	-5	山形県の西部
明治29(1896)年 6月15日	8.5	明治三陸地震	死者21,959	(2~3)	岩手県を中心に北海道、東北地方
明治29(1896)年 8月31日	7.2	陸羽地震	死者209	-5	秋田、岩手、山形県の一部
大正12(1923)年 9月1日	7.9	関東地震 (関東大震災)	死・不明 10万5千余	-6	東京都東京など6点
大正14(1925)年 5月23日	6.8	北但馬地震	死者428	-6	兵庫県豊岡
昭和2(1927)年 3月7日	7.3	北丹後地震	死者2,925	6	京都府宮津測候所など2点
昭和5(1930)年 11月26日	7.3	北伊豆地震	死者272	6	静岡県三島市東本町
昭和8(1933)年 3月3日	8.1	昭和三陸地震	死・不明3,064	5	岩手県宮古市鯉ヶ崎など6点
昭和18(1943)年 9月10日	7.2	鳥取地震	死者1,083	6	鳥取県鳥取市吉方
昭和19(1944)年 12月7日	7.9	東南海地震	死・不明1,223	6	三重県津市島崎町など2点
昭和20(1945)年 1月13日	6.8	三河地震	死者2,306	5	三重県津市島崎町
昭和21(1946)年 12月21日	8	南海地震	死者1,330	5	和歌山県串本町潮岬など17点
昭和23(1948)年 6月28日	7.1	福井地震	死者3,769	6	福井県福井市豊島
昭和35(1960)年 5月23日	9.5	チリ地震津波	死・不明142	—	震度1以上を観測した地点なし
昭和58(1983)年 5月26日	7.7	日本海中部地震	死者104	5	秋田県秋田市山王など3点
平成5(1993)年 7月12日	7.8	北海道南西沖地震	死者202 不明28	5	北海道寿都町新栄など4点
平成7(1995)年 1月17日	7.3	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	死者6,434 不明3	7	神戸市等阪神淡路地域
平成12(2000)年 10月6日	7.3	鳥取県西部地震	負182	6強	鳥取県西部
平成13(2001)年 3月24日	6.7	芸予地震	死2 負288	6弱	安芸灘
平成15(2003)年 9月26日	8	十勝沖地震	死1不明1 負849	6弱	釧路沖〔十勝沖〕
平成16(2004)年 10月23日	6.8	新潟県中越地震	死68 負4,805	7	新潟県中越地方
平成19(2007)年 3月25日	6.9	能登半島地震	死1 負356	6強	能登半島沖
平成19(2007)年 7月16日	6.8	新潟県中越沖地震	死15 負2,345	6強	新潟県上中越沖
平成20(2008)年 6月14日	7.2	岩手・宮城内陸地震	死・不明23	6強	岩手県内陸

家族や地域を守るためにも、まず自分が地震の被害から生き残らなければなりません。自らの命を守るために、職場や自宅の安全を確保してください。阪神淡路大震災では、死者の80%、約5,000人の人々が、倒壊した家屋や家具、家電製品の下敷きとなり、圧死・窒息死により死亡しました。寝室にある家具や家電製品を移動し、転倒を防止するほんの少しの工夫で、命が救われる場合もあります。自宅や職場の家具などの配置を見直し、安全に避難する方法を考えて、地震に冷静に対応できるように、日頃から意識しておくことも重要です。

うし、家族や友人の安否が確認できない状況も発生します。地震が起こったらどうやって連絡をとるか、どこに避難するかを家族で話し合っておきましょう。171災害時伝言ダイヤル(<http://www.ntt-west.co.jp/dengon/>)も電話が通じないときの安否確認に利用できます。

震災では、倒壊家屋の下から救出された人の3/4は、地域住民が助け出したと言われ、「共助」の力が見直されるきっかけになりました。中でも淡路島の北淡町では、約6割の家屋が倒壊し、多くの住民が生き埋めになりました。しかし地域の結びつきが強く、生き埋めになった人の位置を近隣住民が的確に把握していたため、地震発生から80時間の間に、生き埋めになった300人全員を消防団や住民が中心となって救助し、犠牲者を最小限に食い止めました。

五條市でも住民が主体となった防災活動が始まっています。各地区の市民が組織する自主防災会は奈良県下でもトップクラスの組織率を誇り、市や消防本部、消防団、赤十字奉仕団などの関係機関と一体となった防災訓練や救急救命講習、地図上で災害をシミュレーションする図上訓練など、自主防災会のリーダーが中心となって地域の防災力向上に取り組んでいます。

近年奈良県では大きな地震が発生していないため、私たちの住む地域は地震と縁遠いと思われるがちです。しかし、地震の歴史をふりかえると、その記録は奈良県から始まっています。最も古い地震の記録は、西暦416年8月23日にさかのぼります。これは「日本書紀」に「ないふる」「ない」地面のことで、ふるは揺れるという意味と記された、当時の大和国、私たちが住む奈良県で発生した地震の記録です。また599年5月28日に発生した地震により、家屋の倒壊など地震の被害の記録がはじめて書き残されましたが、これも奈良県で発生した地震とされています。数百年、数千年前から地震は繰り返し発生し、被害を出しています。近辺に存在する活断層を見ても、この五條市は決して地震に縁のない地域ではありません。

地震は長い周期で繰り返され、発生する時期や被害を予測することができないため、台風などに比べ十分な対策をとることは困難です。しかし地震は必ず起こります。それが今日であっても、明日であっても不思議ではありません。大規模地震は、人間の手で食い止めることはもちろん、被害をゼロにすることも不可能ですが、被害の程度を最小限に抑えられるよう、「自助、共助、公助」の力が一体となって地震に對しての備えを行い、自分自身、家族、隣近所、地域を守るため、日頃から地震が発生したときの対処の方法を考えおきましょう。